



平成灯台守

2023. 11 月号

発行/御前埼灯台を守る会

灯台できて150年 No.2

サッと飛んだ光の矢 村人はワーッと歓声

また、御前埼灯台六十周年祭（昭和9年）にあたり、同年5月19日より6月9日まで21回の特集を組んだ新聞は5月1日の初点灯の様子を次のように紹介しています。



「技師リチャード・ヘンリー・ブラントンと燈明番教授方マグリッチが螺旋形の狭い階段をコツン コツンと力強く踏みしながら燈光所へと上がって行った。そして、仄暗いランプの光の中に浮くように光っている鋼鉄の機械を見回って見た。

そして、望楼への扉を開いて遙か遠州灘の姿を見入った。爽やかな風が心持ち上気した二人の頬に興奮を静あるように流れた。星がキラリキラリと輝いていた。

未知の世界から来る白熱燈光！奇跡を待つ村人達の興奮のざわめきが一転して、不気味な静寂が一瞬全世界を埋め尽くしたかと思った、その刹那だ！サッと真っ白い矢が燈台の頂上から飛んだかと思うとスーと尾を引いた光の弾丸は遠州灘の沖合遙かに帯のように流れたのである。

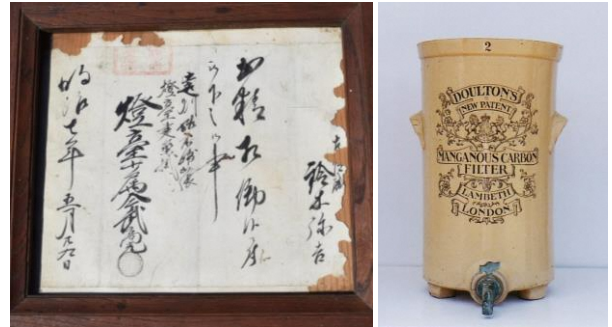
見よ！その光がクッキリと闇を真っ二つに割った、そして静かに静かに明滅しつつ、そして旋回を開始したのではないか。奇跡だ！奇跡だ！村人達はワーッと歓声を上げてこの光の奇跡を祝福した。

白帆を張った漁船が一つ、二つその光の中に見えた、そして消えた。」

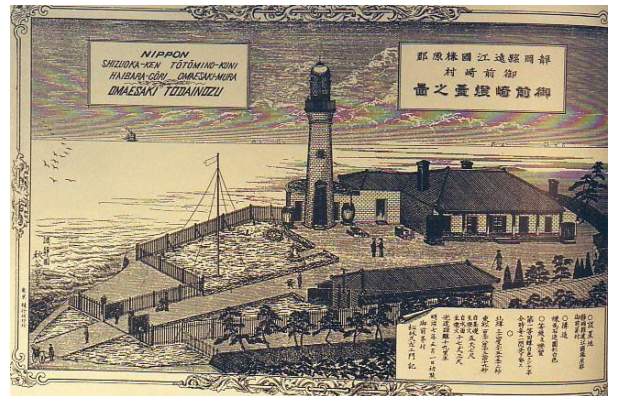
灯台建設を裏付ける遺物・宝物



英国人技師から土地の娘への贈り物



工事に携わった地元左官に贈られた感謝状



明治35年頃作成された版画



駒形神社に奉納されている絵馬



金属加工に使われた金敷（金床）



墓地移転の鎮魂と工事安全を願う遷霊塚

村、町を挙げて灯台の功績に感謝 60、80、100周年に記念祭挙行

過去、御前埼村、御前埼町は、海の安全を見守ってきた灯台と灯台関係者の労苦に感謝するとともに灯台の必要性を再認識し、併せて海上殉難者を供養するため大きな節目毎に記念事業を行ってきました。

60周年祭は、昭和9年6月17日、御前埼村と静岡新報社（静岡新聞社の前身）が事業主体となり、総裁静岡県知事、名誉会長静岡新報社長、会長御前埼村長、その他国・県代議士、県水産会長等による記念祝典役員組織を構成して行われました。

特に新聞社は、江戸時代の灯明堂設置から洋式灯台着工に至る歴史背景や業務に携わる灯台長の苦労話、御前埼沿岸の海難記録などを21回にわたる特集を組む熱の入れ様でした。

80周年記念祭は、昭和29年7月11日に行われ、式典の他に灯台構内ではNHK素人のど自慢、三つの歌、奇術、舞踊、漫才、花火打ち上げが行われました。

そして、100年祭は、昭和49年5月23日、御前埼灯台建築首員R・H・ブラントンの祖国のイギリス海軍武官も同席して行われました。

記念事業として灯台下駐車場に「ふるさとの灯台」の歌碑が建立されました。

また、アトラクションは御前埼小学校体育館で行われ、田端義夫歌謡ショー、青年団、婦人会、有志による歌謡・舞踊、太鼓

演奏等が花を添えました。

小中学生の灯台をテーマとした絵画、習字、作文が展示され、町民ぐるみで灯台100年を祝いました。

灯台の“道しるべ”見つかる

このほど、灯台を守る会は、灯台の方向、距離を知らせる道標を解体工事が行われている旧御前埼町中央公民館で確認しました。

この道標は大山区内の下岬、上岬三差路にあったという高さ90cm、横幅・厚さ約30cmの伊豆石で、碑面に「右 燈明臺 迄九町」と彫られています。

守る会では灯台150周年記念事業として灯台構内に移築復元したいと思います。

灯台調査 2

部埼（へさき）灯台

部埼灯台は、北九州市に渡る関門橋の東側、周防灘口の小高い丘にあります。

明治5年1月22日初点灯した大阪条約灯台で、下関市の六連島（むつれじま）と同時期にR・H・ブラントンによって建設され、東シナ海から瀬戸内海に入る重要な位置にあります。灯台の高さは9.7m、石造（花崗岩）で、半円形の附属舎の上に御前埼灯台に似た灯ろうが載っています。光の色は白色、不動光と毎15秒に1せん光の2種を放ち、潮流の向きや速度を電光標示で知らせる潮流信号所も併設され、関門海峡を航行する船舶の安全を見守っています。

灯台は令和2年秋に犬吠埼灯台（千葉県）、角島灯台、六連島灯台（山口県）とともに国の重要文化財に指定されました。

